

寄居工場でPVパネル処理

ウム・ヴェルト・ジャパン

日量約4t、埼玉県内では初

ウム・ヴェルト・ジャパン(寄居工場・埼玉県寄居町、小柳明雄社長、☎048・577・1153)はこのたび、彩の国資源循環工場内にある本社寄居工場、太陽電池モジュール(PVパネル)の処理事業を開始した。埼玉県でのPVパネル処理事業は初となる。処理能力は日量4・48t(8時間稼働)。埼玉県を主な回収範囲としながら、周辺

地域からの処理依頼にも応え、年間240tの処理を目指す。導入したPVパネル処理設備では、まずケッチク類や金属類の破砕ラインで処理し、風力・比重選別等で銀や銅などの金属素材を分離。ガラスは建設資材原料に、分離した金属素材は製錬事業者等に売却する。分離後のバックシートはセメントの原料・熱エネルギー代替やRPF原料としてリサイクルされる。

この破砕ラインでは、PVパネルと共に廃プラや金属くず等の処分許可も取得しており、同社の廃蛍光管処理事業で問い合わせの多い、電灯のシェード等の混合産業廃棄物も廃蛍光管と合わせて受

り外し、剥離装置で表面ガラスを削り取る。ガラス剥離後のバックシートは、廃プラスチック類や金属類の破砕ラインで処理し、風力・比重選別等で銀や銅などの金属素材を分離。ガラスは建設資材原料に、分離した金属素材は製錬事業者等に売却する。分離後のバックシートはセメントの原料・熱エネルギー代替やRPF原料としてリサイクルされる。

蛍光管処理プラントでは、年間1000tの廃蛍光管を再資源化している。水銀測定器での場内濃度管理や水処理装置を用いたクローストシステムにより、環境に配慮したりサイクル処理を行っている。水銀回収後のガラスは、蛍光管や電球等の原料として水平リサイクルされている。LEDランプの普及により蛍光管の排出量は減少傾向にあるが、古い建物の解体現場や大手工場では廃蛍光管や白熱電球等が発生し

も、廃蛍光管の受け入れで建物解体業者や

継続している。同社は今後も必要な事業として、堅実に蛍光管の再資源化を行っていく。PVパネルの再資源化事業に関する

電気工事業者との信頼関係を活用し、安価な埋立処分に戻ってしまいうパネルを減らし、資源価値を生かせる事業への理解を求めていくとした。

今後は環境省や埼玉県、協力業者らと連携し、複数拠点での回収や通電検査装置の導入によるPVパネルのリユースも視野に入れている。リユースできなかったPVパネルだけをリサイクルする、持

継続可能なスキームの構築を目指すための実証事業も計画している。生産部課長の石倉寿朗氏は「PVパネルは製品によって成分比だけでなく、形状や重さ、ガラス・アルミフレームの接着具合などが大きく異なるため、実際に処理しながら調整・研究を重ねる。今後発売されるだろうPVパネルの処理も課題になる」と述べた。

系I Tベンチャーとして、廃棄物実務管理やエネルギーコンサルティングまで、排出事業者の環境業務全般にわたる支援を行っている。なかでも「エコープ」は、同社独自の手法で排出事業者から出る廃棄物の回収・処理の流れや排出量、リサイクル率などを見える化する。さらに、委託業者とのマニフェ



導入したPVパネル処理設備

排出向け廃棄物管理システムなどを手掛け、I Tベンチャーのグリーンナー(北九州市、根進也社長、☎097・711・824)は5月、双日グループのICT中核企業である日商エレクトロニクスと、戦略的パートナーシップを開始した。環境事業における新たなビジネスモデルの実現を目指すことも

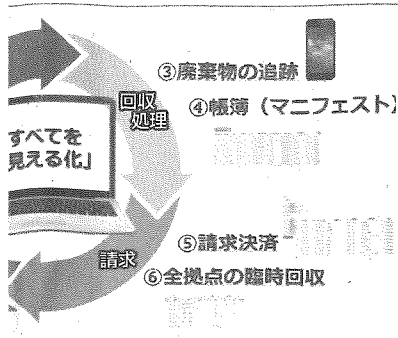
グリーンナーは、環境

排出向け廃棄物管理システムなどを手掛け、I Tベンチャーのグリーンナー(北九州市、根進也社長、☎097・711・824)は5月、双日グループのICT中核企業である日商エレクトロニクスと、戦略的パートナーシップを開始した。環境事業における新たなビジネスモデルの実現を目指すことも

排出向け廃棄物管理システムなどを手掛け、I Tベンチャーのグリーンナー(北九州市、根進也社長、☎097・711・824)は5月、双日グループのICT中核企業である日商エレクトロニクスと、戦略的パートナーシップを開始した。環境事業における新たなビジネスモデルの実現を目指すことも

排出向け廃棄物管理システムなどを手掛け、I Tベンチャーのグリーンナー(北九州市、根進也社長、☎097・711・824)は5月、双日グループのICT中核企業である日商エレクトロニクスと、戦略的パートナーシップを開始した。環境事業における新たなビジネスモデルの実現を目指すことも

環境省... 資源...



排出向け廃棄物管理システム「エコープ」の販売代理店として取扱を図る。グリーンナーは、環境